

## 第1、 近況、雑感

1. ことばの乱れが言われて久しい、忘れられ使われなくなった日本語も淋しいが、AI や SNS で無秩序に放出された悪意に満ちたことばの今後はどうなってしまうのだろうか。兵庫県の選挙に限った問題ではない。
2. 恥ずかしいことに属するのも知れないが、私はパソコンを手にしたことがなく、眼を保護して読書力を落さないために、テレビは聴くだけ、着信専用みたいに携帯電話を持たされた老人になってしまった。けれど特に不便を感じたことはない。SNSの活用が、本来のことばによる伝達以外の機能を社会生活に与えた影響は、世間を知らない子供たちにとって一種の暴力になってはいないだろうか。ジョブズが自分の子息にAI機器の使用を禁じたことや、オーストラリアで16歳未満の子供にSNSの使用を禁止する法案など、深く考える必要がありそうだ。
3. トランプさんの復活によって我が国のエネルギー政策も原発重視に向かいそうだが、原発に反対、太陽光発電・風力発電も拒否という運動家にエネルギー問題の代案を求めたいこの頃だ。米不足も含めて今夏の猛暑で北海道の農業まで北国の魅力を失いつつあることを、30年近く果樹農業にも取り組んできた老人は、遅めの雪でもやっとスキー場がオープンできたことが嬉しい。
4. 谷川俊太郎さんが亡くなった。昭和37年(1962年)5月、寺山修司・九条映子の結婚祝賀会の発起人13人のうちの1人。その日朝からサンケイ会館での警備責任者だった私は、その夜新居の放火未遂事件で上野か永福町へ向かって、九条さんをなだめたことはどこかに書いたので省略するが、石原慎太郎・武満徹・大島渚などみんな逝ってしまった。残ったのは篠田正浩さん1人だけ。谷川さんは自作のことばを大切にし厳しく扱ったことを記憶している。ご冥福を祈りたい。あの日から62年、なんとか生きてきた、生かされてきたというべきだろうか。

## 第2、 今月の報告

- ・明治HD「危ないワクチン」で大儲け(選択、2024年10月号)

### 第3、 今月の本

- ・ 「2050 年の世界」 (ハイミシュ・マクレイ、日本経済新聞出版 2,750 円)  
見えない未来の考え方
- ・ 「食の安全の落とし穴」 (小島正美・山崎毅、女子栄養大学出版部 1,540 円)  
最強の専門家 13 人が解き明かす真実
- ・ 「「ネット世論」の社会学」 (谷原つかさ、NHK 出版新書 1,023 円)  
データ分析が解き明かす「偏り」の正体
- ・ 「人を動かすナラティブ」 (大治朋子、毎日新聞出版 2,200 円)  
なぜ、あの「語り」に惑わされるのか
- ・ 「免疫力こそすべて！」 (奥村康、WAC 1,100 円)  
免疫力アップのために“不良老人”宣言！

### 第4、 今月のことば

- 私はヒグマに生まれたかった。ヒグマになって冬に冬眠したかった。助け合いが不足したこの社会は獣の集団と変わりありません。  
(生活保護利用者のストーブ訴訟の札幌の男性)
- 最終的ゴールを逃すことで、人間は弱さを示し、それはその人間をより美しくするのであり、アルピニズムはスポーツよりも芸術に近い、芸術においてのみ、欠けているものが作品に意味を与える。(クリティカ)
- 電気は、人が豊かに暮らすための道具の一つにすぎないはず。それなのに電気をつくるために、生活の場が失われたり、人のつながりが分断されたりするのは本末転倒です。(山口県祝島の女性)